

# Mt.HAKODATE



## ●主な施設

- 函館山管理事務所
- 函館山ふれあいセンター
- 野鳥観察小屋
- 駐車場

**P** 山麓：無料(障がい者用1台)  
山頂：無料(障がい者用1台)  
立待坪：無料(障がい者用1台)  
つつじ山：無料

**注** ただし、山麓およびつづじ山駐車場は、4月25日から10月15日の年間期間中、障がい者まで1台、障がい者以外は2台まで、乗降は1台限りとなるためご利用できません。

- トイレ(7か所、うち2か所は冬期間閉鎖)

## ●交通手段

市電：宝来町電停下車 徒歩20分  
(函館山ふれあいセンターまで)

## ●問い合わせ先

函館市土木部緑化推進課 Tel. 0138-21-3431  
函館山管理事務所 Tel. 0138-22-6789  
函館山ふれあいセンター Tel. 0138-22-6799  
(財)函館市住宅都市施設公社 Tel. 0138-40-3605

http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/  
E-mail: green@city.hakodate.hokkaido.jp

作成年月/2008.3

## 函館山の豊かな自然を 守りましょう!



入山  
注意事項  
①

### 「採らない! 持ち込まない! 踏み込まない!」

- \*豊かな自然を守るため、都市公園条例により全ての植物の採取は禁止しています。
- \*生態系の保護・保全のため、動植物(種子を含む)の持ち込みは禁止しています。
- \*指定された散策コース以外の立ち入りは禁止しています。
- \*たき火など火気を取り扱うことは禁止しています。
- \*指定された場所以外での喫煙は禁止しています。
- \*ゴミは各自で持ち帰り願います。

入山  
注意事項  
②

## 函館山の危険な動植物には 注意しましょう!

豊かな自然が残る故に、函館山には「マムシ」、「スズメバチ」、「ツツウルシ」など、危険な動植物が見られますので、十分注意して下さい。



\*もし噛まれたり、刺された場合には、落ち着いて救急車を呼ぶなど、すぐに病院に行きましょう。



## 函館山と人



### 倉山卯之助 (くらやま のすけ)

函館山の樹木は、伐採と植林の繰り返しといわれています。松前藩時代、北海道では樹木は薪(まき)やニシンを加工するための燃料として、また藩の貴重な収入源として伐採されたため、函館山は木がほとんどなくなってしまいました。



現在の豊かな森は、寛政11(1799)年に蝦夷地が幕府の直轄地となり、享和元(1801)年にここを巡視した幕府の役人が、「箱館管内の山は、海岸から一里余りは大体はけ山になってしまっていることから、木を伐採する時は植林の義務を課せよなどの、伐採法を定めて取り締まりを厳重にしなければならない。」と報告したことに始まり、江戸後期、七重村(現在の七飯町)の百姓「倉山卯之助」により、育成した苗木を函館山に移植したことが、スズ人工林の始まりとされています。

右上の写真は、旧登山道1合目付近にある樹齢約200年のスギの大木です。

### 石川啄木一族の墓

函館山緑地内ではありませんが、立待坪へ通じる道路沿いに、歌人石川啄木一族の墓があります。函館には、わずかに4か月しか暮らしていませんでしたが、「俺は死ぬときは、函館で死ぬ」というほど函館を愛していたといわれています。27歳という短い生涯を東京で終えた啄木の遺骨は、夫人の希望で、一周忌の大正2(1913)年に函館に移され、啄木が愛した大森法を望む高台に、義弟の宮崎郁雨などの文学仲間の手で墓が建てられました。

碑面には、「東海の小島の磯の白砂にわれ泣きぬれて蟹とたはむる」という歌が刻まれています。



## 函館山歴史年表

～戦前 戦後～

西暦	事項・内容	西暦	事項・内容
1296 (永享4年)	日持上人登山 御殿山山頂の大石に題目を墨書したと伝えられる。(題目石)	1946 (昭和21年)	函館山一般開放 開放当初は町会単位での入山を許可 函館山管理事務所設置
1800 (文化12年)	伊能忠敬蝦夷地調査のため来箱 函館山から蝦夷地の測量が始まり、約20年かけて「大日本沿海輿地全図」を完成させる。	1947 (昭和22年)	千歳鉄道台所に国鉄無線通信所設置
1808 (文化9年)	倉山卯之助が約7年間で杉苗約2万本を植林	1948 (昭和23年)	三十三観音像を再び函館山に安置 都市計画決定(325.6ha)
1832 (天保3年)	三十三観音像安置 西宮33番目の札所の土と、観音像を運ぶ。 <small>フナキストーン(函館山管理事務所蔵)</small>	1950 (昭和25年)	函館山観光登山道建設工事開始 2年後の昭和27年に完成する。
1856 (安政3年)	函館山を臥牛山(がびゅうざん)と称す	1952 (昭和27年)	函館山索道建設工事施工
1860 (万延元年)	マキシモヴィッチ 函館山で植物採取	1953 (昭和28年)	市営定期バス運行 日曜、休日運行、往復料金一人50円、山頂に展望台設置
1861 (文久元年)	ブラキストン 函館山で鳥類調査 本州と北海道の動物に違いがあることを発見し、津軽海峽が「ブラキストン海峡」と呼ばれるようになる。	1954 (昭和29年)	テレビ電波塔設置 千歳電にスキー場開設
1875 (明治8年)	旧幕府指定軍戦死者(箱館戦争戦没)を顕彰して観音碑(へつづつひ)を建立	1957 (昭和32年)	函館山ロープウェイ設置 31人乗交差点で、当時日本で1番大きなゴンドラであった。
1898 (明治31年)	函館要塞建設開始(仮想ロシア艦隊)	1958 (昭和33年)	「函館山植物誌」発行 豊原繁基、小松幸造により約600種を超える植物が紹介される。山頂駐車場と展望ハウス完成
1899 (明治32年)	要港地帯法公布 函館山への入山、10km以内の撮影等が禁止される。函館山の要塞化により、観音像を山頂に安置	1959 (昭和34年)	鳥獣保護区に指定
1902 (明治35年)	函館要塞建設終了	1962 (昭和37年)	鳥獣保護区特別保護地区に指定
1904 (明治37年)	日露戦争 日露国交断絶、対露宣戦布告。	1964 (昭和39年)	立待坪索道建設完成
1911 (明治44年)	皇太子殿下(大正天皇)行啓 千歳電、十二番観音像付近に御所の新設	1968 (昭和43年)	自然保護の高まりから、穴丸海水浴場脇の採石を中止
1914 (大正3年)	第一次世界大戦勃発 三十三観音像を洞川寺に安置	1972 (昭和47年)	一般車両の交通規制開始 登山道の渋滞解消のため、午後7時から9時まで一般車両の乗り入れを禁止。
1920 (大正9年)	函館要塞区域内のエンゲテシ山の一部を市民に開放	1973 (昭和48年)	函館山索道建設計画凍結
1927 (昭和2年)	函館要塞を津軽要塞と改称 従来の函館要塞のほか、青森大森および少石にも要塞を築造して、津軽海峡の防衛を担う。	1975 (昭和50年)	特定植物群落 函館山自然林に選定(環境省)
1929 (昭和4年)	穴丸海水浴場脇で採石開始	1979 (昭和54年)	日本の自然100選に選定(朝日新聞社)
1932 (昭和7年)	「函館植物誌」を刊行 山本實隆、塚本角太郎著。	1983 (昭和58年)	水元谷に野鳥観察小屋設置
1940 (昭和15年)	津軽要塞完成 北海道函館山、少石岬、白神岬、青森県大湊、鹿島岬	1984 (昭和59年)	森林浴の森日本100選に選定(財)森林文化協会)
1942 (昭和17年)	「臥牛」の銅像彫出 昭和10年に磐倉前に建立された「臥牛」の銅像が、銅像回収の騒動によって撤去される。	1986 (昭和61年)	ロープウェイの大型化と新展望台完成
1943 (昭和18年)	観音碑前に三重塔建立 撤出された「臥牛」に代わり、矢志を顕彰し建立される。	1988 (昭和63年)	一般車両の交通規制期間延長 4月25日から10月15日までの午後5時から10時まで一般車両の乗り入れを禁止。
1945 (昭和20年)	終戦	1992 (平成4年)	「函館山と砲台跡」として北海道遺産に選定(北海道)
		2001 (平成13年)	日本の歴史公園100選に選定(社)日本公園緑地協会)
		2006 (平成18年)	

## 函館山緑地



函館山(明治20年代) 函館市中央図書館 所蔵



## 函館山

歴史を継ぐ



函館真景(明治15年) 函館市中央図書館 所蔵

## 函館市